



歴史資料館だより

発行者 聖隷歴史資料館

〒四三三-1855 八
浜松市北区三方原町三四五三
聖隷クリストファー大学五号館一階
TEL 〇五三(四三九)三四〇七
FAX 〇五三(四三六)五三五五

第七回聖隷グループキリスト教信徒交流会

「互いに知ろう、

聖隷グループの働きと仲間たちのこと」

昨年十月二十九日土曜日の午後、聖隷クリストファー大学学生ホールにおいて、既に七回目となる聖隷グループキリスト教信徒交流会が開催されました。

聖隷グループの各法人は、事業規模の拡大と共に職員数も増え、クリスチャンの数は少ないですが、クリスチャン精神における隣人愛の理念に共感し、誠実に働いている職員で構成されるようになりました。このことはすべての法人に共通していることです。信徒であるか否かに関わらず、この交流会を多くの仲間と共に良き働きがでるための「繋がり」を確認できる場としたいと考えています。

各法人からの発表・報告を聞き、グループの中で自由な交流、意見交換を行います。

今回の幹事法人は聖隷福祉事業団、国内七つの法人から九十三名が参加し、聖隷厚生園の長谷川清太施設長による開会礼拝の後、右のような趣旨・内容で行うことについて、聖隷福祉事業団の津幡佳伸常務理事から次のような説明と挨拶がありました。

第一回の交流会が始められたと

きは、たしかお互いにそれぞれの地で頑張っているクリスチャンの聖隷職員たち、そしてまたそのことに協力してくれている多くの仲間たちと知り合い、交わりながらスタートしていこうということをお教わったと記憶しています。今回、当番法人となり、あらためてこの会が終わった時に、場所は違ってもこういう仲間たちがいるんだという確認の場にしたと思います。このようなテーマにしました。



各法人の代表の方に発表・報告をしていただきませんが、それぞれの法人がこんな地でこんな働きをしているという情報交換や意見交換をしていただきたいと思います。聖隷グループで働く中で普段思っていること、ネガティブな思考もあるかもしれません、

逆

逆にポジティブに私はこういうことをやりたくて働いている、今はこういう役割だがこれからこういう役割を担っていききたい、いろんな人の協力を得てこんな働きができたらというようなことを思いながら、クリスチャンとしてまたそれを見守る者としてこのグループワークが祝福された実りあるものになればと思う次第です。

今回は神戸聖隷福祉事業団の水野雄二理事長が就任後初めてのこの会に参加してくださいました。限られた時間ではありますが良き交わりのときとなりますよう願うものです。

引き続き山本誠宝塚結いホーム施設長の司会により各法人からの発表・報告と出席者紹介が行われました。当日の順に報告いたします。



聖隷学園はクリストファー大学事務関係の高木広幸部長から、聖隷の精神継承に関する学園の取り組みやゲストスピーカーとして聖隷

◆聖隷歴史資料館

開館時間のご案内◆

平日(月～金)の10時～17時
(土・日・祝日と)
聖隷学園の休日は休館)

グループ各法人の協力を得て開講している大学の必修科目「聖隷の理念と歴史」について紹介がありました。

十字の園は平井章理事長がお手製の紙芝居による発表を行いました。



鈴木唯男さんが遺した聖隷の歴史資料から機関紙聖隷(当初は聖隷集団の機関紙)創刊号の長谷川保理事長の巻頭言「聖隷保養園はキリスト教の実

践活動として神に押し出され、... 神の導きと援助の下に思いもよらない発展を...もし創設の一隅の照者は天下を照らすものとなる...」を紹介し、第二号十字の園特集の「老人とともに生きる!」を引き、十字の園の高齢者福祉事業をより発展させるものとして、浜松十字の園の定員増やアドナイ館付設の小規模多機能施設設置構想が語られました。



発表・報告は食事を摂りながら、あいだにテーブルごとのグループで自己紹介やディスカッションをばさんで進められました。

小羊学園の稲松義人理事長は、「小さい者が一人でも減びることは天に在す私たちの父のみこころではない」ということを言い続け、仕事をしてきたとして以下の報告がありました。



障がい者の環境は大きく変化し職員には今までにならぬ苦勞があり

ます。施設だけではなく家庭や地域を含めた支援が必要で、制度が整っていない部分を私たちがやっていたいかなければならないと思います。日本キリスト教社会事業同盟では職員研修の場としてキリスト教ワークショップを開催していますが、クリスチャン職員が否かに関係なく聖書がいかに大事であるかを再発見しています。

続いて**牧ノ原やまぼと学園**の長沢道子理事長から各施設の参加者と合わせて事業内容の紹介があり、昨年からの変化として次のような報告がありました。

経営コンサルタンの協力を得て職員の満足度調査を実施し対応をしてきました。また管理者の研修をしていきますが、支援の質のレ



ベルアップや給与規定の改定が課題です。社会福祉法改正や時代の変化の中で社会福祉法人に求められる姿が変わってきて

います。それに相応しい、けれども魂を忘れない法人にと考えてリニューアルプランを作成し、やまぼと学園に関わる全ての人があわせになるよう共生社会の形成に貢献し続ける学園にならうという新しいヴィジョンを掲げました。



神戸聖隷福祉事業団から初参加の水野雄二新理事長は、就任挨拶に続き転換期にある法人が掲げる四つの目標について語りました。

①キリスト教に基づく基本理念をどのように堅持し今日的に理解して進めることができるか。②利用者に対する支援員の確保と質の向上。③事業の刷新、求められる事業とは？ 四月には地域密着型の特別養護老人ホームを但馬地区に開設します。④改正社会福祉法への対応。 厳しい時代ではありますが夢を

もち理念に高く立つて事業を進めたいと考えています。

聖隷福祉事業団は今回の幹事法人として、聖隷グループの課題も含め津幡常務理事から話がありました。



社会福祉法人の大きな制度改革があつてあるわけで、ほとんどが小規模の社会福祉法人のなかで聖隷グループの各法人は神様に祝福されて規模が拡大してきました。厚生園時代、鈴木唯男先生は「世の中には科学的な社会福祉事業があるが、キリスト教社会福祉事業を大切にしない」と言われました。この言葉をかみしめながら、こういう集いで我々の事業にある核を確認しなければと思います。

聖隷福祉事業団では地元にごどもを増やしたいという淡路島の要請に応じて聖隷淡路病院のとなり大きな保育園を作ることになりました。クリスチャンではない職員からのどうやってキリスト教保育をすればよいか、という問いかけにキリスト教社会福祉事業への理解と使命を感じます。

遠州栄光教会

平野芳子主任牧師は、日本基督教会浜松伝道所に始まる教会の歴史、「聖隷」の意味について語り、グループの職員に教会に来てほしいと呼びかけました。



交流会はグループディスカッションの後、聖隷学園長谷川了理事長の奨励「聖隷グループが継承していく理念と信仰」がありました。理事長は長谷川保著「夜もひるのように輝く」の一節を紹介し、聖隷最初の結核患者・桑原昇次郎青年の信仰に溢れた厳肅な死に様を通して我々の生き方が正される、利益のみを目標とせず、助けを必要としている人々の友と



なり聖なる神の奴隷として徹底して愛の業に励むことが聖隷の原点であると述べました。更に聖隷学園の将来構想としてこども園、小中高からのバイリンガル教育、世界共通のメディカルスクール開設について思いを語りました。

最後に聖隷三方原病院佐藤志伸チャプレンによる礼拝で会を閉じました。



SEIREI ASHA BHAVAN 1989-2016

聖隷希望の家(インド)代表 ヴァルゲーゼ・アブラハム

Seirei Asha Bhavan (インド聖隷希望の家)を社会改革のパートナーとして紹介してくださることは大きな喜びです。インド聖隷希望の家は社会福祉法人として障がいのある人々について周知し、権限と尊厳と一体感をもたらす総合的なケアを行い社会復帰ができるようにすることに努めています。また高齢者と特に障がい者のほか地域一般の人々の健康、栄養、公衆衛生問題に対する意識向上に努めています。



1991年当時、聖隷グループの支援により購入した建物と入園者たち

Seirei Asha Bhavan は神様のいるお恵みのもと一九八九年に生まれ、障がいのある人々の総合的な成長、そして健常者との統合教育への確かな関わりを築いてきました。はじまりは貧しく、借施設での出発でした。

その後一九九一年に聖隷グループの皆さんの温かい支援により私たちの家と土地を手に入れることができました。今、貧しいはじまりを懐かしく振り返り、神様がインドの多くの人々のために私たちを用いてくださることに感謝しています。現在、聖隷希望の家ではケアホームで77名の障がい者を直接ケアし、また地域を通じて112名の人々を復帰プログラムによりケアしています。27年以上にわたり、障がいをもつ多くの人々を収入推進施策のもと、彼らの地元で社会復帰させることができました。



写真上・右 職業訓練の様子
綿から糸を作る紡績ユニット、ろうそく作り、レンガ作り(新しい建物の建築に使います)、植木鉢作りなどを行っています



知的障がいのある入園者たちの20周年記念文化祭プログラム

Seirei Asha Bhavan がこの27年間継続してきた事業は、真の犠牲精神と深い関わりを受容することのできない人にとつては想像しがたいものだと思います。27年という年月は、幸薄い人たちをケアし復帰を支援する希望の家のような組織にとつて、殊にケララ州のような地においては決して短い道のりではありません。さまざま不足に抗して前進しなければなりません。そのような困難の中にあっても不幸な同胞への援助に重要な役割を果たすことができました。聖隷の皆さんの心のこもった支援・援助と連帯に心から感謝します。

私たちは共に多くの障がい者、高齢者及び私たちのケアと助けを必要とする目の前の人たちの生活を大きく変えることができました。常に障がい者の先を見据え、共にバリアーを打ち壊しています。今後も手を携えてできる限りの方法で彼らに手を差し伸べて行くようではありませんか。

聖隷希望の家のメインとなる建物はすでに築後120年以上になり、



知的障がい者のための新たな建物の建設が2017年完成を目指して進められています

一昨年のモンスーンで一部が損壊しました。現在、二〇一七年中ごろの完成を目指して新たな建築計画がスタートしています。皆さんからの笑顔と激励、支援に心からお礼を申し上げます。

洞察力にあふれた偉大な社会福祉事業家である故長谷川保先生は言われました、「暗い夜が明ければかならず輝く昼がある」と。

(原文英語・聖隷歴史資料館和訳)



インド聖隷希望の家コミュニティの皆さん
前列左端がアブラハムさん夫妻

新時代の希望の家 ～伝統と近代化の結合～

希望の家福祉協会（ブラジル）理事長 ニバウド・良俊・小渡

Casa da Esperança（ブラジル希望の家）はサンパウロ州イタクラケセツバ市にあり、知的障がい児・者に対する市民としての生活の確保、愛と慈善にその生涯を捧げた日本人の市川幸子先生によって一九六三年に創立されました。多くの入園者を受け入れ資金難に陥った一九七〇年代には長谷川保先生と聖隷の皆様の大きなご協力を得ました。非営利の慈善団体として入園者の生活の安定、健康と権利の保護を目的とし、ブラジル政府公認の福祉協会設立から四十五年間にわたり知的障がいの入園者のお世話をしています。



希望の家の創設者・市川幸子（こうこ）先生

幸子先生は二〇〇一年一〇月二五日に亡くなりましたがその夢、教訓、特に希望は施設の中に今も残っております。現在希望の家には約七〇人の入園者があり、その

運営は四〇人のボランティア役員、百人以上の従業員、そして多数のボランティアによって行われています。

本部の活動

日常の活動以外に医療、歯科のケア、作業セラピーによる創造意識、運動神経、実習、自立、家族との共同生活、社会復帰に向けて活動を続けています。入園者はそれぞれの能力または好みに応じた



写真上
絵画講習に参加する入園者とその作品

作業を終日行います。活動には手芸、体育、音楽セラピー、刺激、「キボウテック」という名称のデジタル室参加等があります。

二〇一五年五月から独立作業場を統合させました。そこでは個人衛生、衣服の注意、食事、スペース感覚、障害者の性の問題、自由行動の権利、金銭の取扱い、作業場における態度、人間関係、共同生活などを指導し、作業セラピーによる労働市場への参加を目指しています。



写真上・左
自立作業訓練の一環としてスーパーでの買い物、公共交通機関の利用を体験する入園者たち



将来へ向けての一步

二〇一四年以降、希望の家は知的障がい者の望み、願いや欲望を抑制してはならないという新しい視野を持って、将来に向けて活動範囲を広げ、知的障がい者の社会参加を目指しています。希望の家の役割は、知的障がい者の自立、公平そして幸福感に満ちた生活をもたらす条件を整えることです。そのためには新たな技術の習得、新しい基礎が必要です。改造のための投資、訓練等は希望の家にとって大きな挑戦です。このように大きく変わっても市川幸子先生の訓えには変わりはなく、入園者の安定を最優先に考えています。伝統と近代化を織り交ぜて、過去を忘れず新しい時代に順応して希望の家は前進します。（原文ポルトガル語・大野副理事長和訳）



写真上・下
成日
の作
業者
の常
作
業
は
手
芸
品
の
入
園
者
の
常
作
業
で
す



聖書のことば

「神の恵みの先行 出エジプト記第二章一節〜十節」

学校法人聖隷学園 宗教主任 永井英司

モーセの物語です。エジプトに寄留していたヘブライ人に対して、ヨセフを知らない新しい王たちは様々な迫害を加えていった、とあります。強制労働などの虐待だけではなく、産児制限に等しい男児虐殺命令など迫害は苛酷を極めていきました。

これを掻い潜るかのようにしてモーセは生まれてきました。生まれて最初の三か月間は隠す事ができました。見つかったて殺されるよりはと思つた両親はパピルス(多年生植物名)で籠を作つてそこへ入れ、葦の茂るナイル河畔にそつと流すのでした。

波乱に満ちたモーセの人生はここで既に暗示されています。かつてノアが神に命じられ、ゴフェルの木で建造した「箱舟」という言葉とパピルスで作られモーセが寝かされた一人乗りの「籠」という言葉は、なんと「同じ用語」が用いられています。モーセの使命の重大さと共に、神の確かな導きがあることに気付かされます。

私たちはモーセに対して英雄豪傑という印象を抱きます。血気盛んな時、同胞を虐待から救おうとしてエジプト人をあやめてしまったモーセは、ミディアンの地へ逃亡しました。そこで突然に、神の召命が告げられ、

エジプトから同胞を導き出す使命を委ねられるのでした。

はじめ、モーセは「わたしは何者でしょう」「だれかほかの人を見つけてお遣わしてください」と言つて神の召命を拒み、自分は口も舌も重く朴訥でしかないと言いつつ、何とか神の前から逃れようと足掻くのでした。

もちろん、神はモーセの主張を一蹴するかのように、雄弁な兄アロンに協働を命じ、不思議なしるしを齎す杖を与えて、エジプトにいる同胞を解放する使命の遂行を命じたのでした。四三〇年に及ぶエジプト寄留から乳と蜜の流れる約束の地に向かって、彷徨の旅が開始されていったことは、一・二・三・七節以下に記されています。

モーセは同胞に向かつて「主があなたたちのために戦われる。出エジプト記一四・一四」という神の恵みの先行を告げながら、荒野へと歩みを進めて行きました。

主イエスは「父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。ヨハネによる福音書二〇・二一」と告げています。主イエスの派遣のみ言葉に応えられるよう祈りましょう。

鈴木唯男さんのはたらき



鈴木唯男さんが昨年六月二五日に天に召されました。百三歳でした。

聖隷創始時に長谷川保らに請われて聖隷社クリーニング店で働き、ベテルホーム時代に結核患者と共に生きる仕事に移りますが自らも結核に感染して療養生活を送りました。聖隷保養農園での療養を通じて先輩療養者・大橋徳三の指導を受け共に「大気安静自然療法」を編み出し、実践しました。聖隷社での毎朝の礼拝でキリスト教を知り深い信仰者となりました。「看護という仕事は、ついでにしてはならない」というディアコニッセ・ハニ姉妹の看護の姿勢に打たれたこともまた聖隷の看護・介護の原点となった鈴木さんの実践と理論のベースにありました。化学療法や外科療法など結核治療に近代的療法がもたらされると、聖隷第一号のケースワーカーとして聖隷の医療社会福祉事業のさきがけとなりました。聖隷保養園から独立した讚栄寮(旧)が聖隷厚生園となった後は、作業療法等を取り入れて治療者あるいは不完全治療者の更生・社会復帰に尽くし入園者の人生に灯をともしました。

最晩年は聖隷歴史資料館の館長として聖隷創立の精神を伝え続けました。召天の地はハニ姉妹が設立に尽くした十字の園の第2アドナイ館の一室でした。

聖隷グループ情報コーナー

遠州栄光教会森田牧師が退任

森田恭一郎牧師は一九八五年に赴任して以来、教会及び聖隷グループの病院・施設・学校で活動を続け、昨年九月末で退任しました。その記念として九月に「『医療・福祉・教育』と『キリスト教』の関係の豊かさを分かち合う」私の見えてきた『聖隷』と『キリスト教』と題して講演を行い、三十余年に及ぶ聖隷での活動を振り返りました。

聖隷福祉事業団 油壺エデンの園開設三〇周年記念式典

介護付有料老人ホーム油壺エデンの園(神奈川県三浦市)が開設三十周年を迎え、昨年十一月一日に式典を行いました。同日に行われた記念講演で山本敏博理事長が開設から今日までを振り返り、「今後サービス質の向上を目指していく」と述べました。

神戸聖隷福祉事業団に新理事長が就任

昨年一月、越智理事長(現顧問)の後任として水野雄二理事長が就任しました。同理事長は、神戸聖隷福祉事業団の創設を担った西神戸教会の教会員であり、就任前は神戸YMCAの総主事を務めました。十一月には、創業の地、但馬に神戸聖隷歴史資料館を開設し、ミッションの継承に努めています。

歴史資料館ホームページについて

・ホームページに資料館だよりのバックナンバーを掲載しました。また資料館案内のページに取扱い書籍一覧を掲載しました。
・資料館リーフレットの英語版を作成しました。



長谷川保聖書研究

マタイによる福音書第五章二一―三〇節

「昔の人は『殺すな。人を殺したものは裁きを受ける』と命じられている。しかし、わたしは言っておく。兄弟に腹を立てる者はだれでも裁きを受ける。兄弟に『ばか』と言う者は、最高法院に引き渡され、『愚か者』と言う者は、火の地獄に投げ込まれる。だから、あなたが祭壇に供え物を献げようと、兄弟が自分に反感を持っていてのをそこで思い出したなら、その供え物を祭壇の前に置き、まず行って兄弟と仲直りをし、それから帰って来て、供え物を献げなさい。(中略)はつきり言っておく。最後の一クアドランスを返すまで、決してそこから出ることはできない。」「あなたがたも聞いておくとおり、『姦淫するな』と命じられている。しかし、私は言っておく。みだらな思いで他人の妻を見る者はだれでも、既に心の中でその女を犯したのである。もし、右の目があなたをつまみかせるなら、えぐり出して捨ててしまいなさい。体の一部がなくなっても、全身が地獄に投げ込まれない方がましである。もし、右の手があなたをつまみかせるなら、切り取って捨ててしまいなさい。」

「・・・と命じられている。しかし、わたしは言っておく。」という言葉が出てきます。イエス・キリストは、律法を与えたのは神であり、わたしであるという立場から「しかし」という言葉を使われたわけですね。聖書の中には「腹を立てる」という言葉が二つ出てまいります。ここに出てまいりますのは「オルゲー」という言葉で、「いつまでも続く怒り」という意味です。もう一つは「シユモース」。たとえばわらに火をつけると一瞬バーツと燃え上がる、そのような怒りです。ここは「オルゲー」といういつまでも忘れない怒りで、クリスチャンは神の罪の赦し、十字架の赦しが私どもの存在の根本にあるのですから、人の過ちや罪に対してどこまでも許さないという怒りはできないわけですね。「ばか」は、「ラカ」という言葉で、日本人は「バカ者」という使い方をしますが、その類の言葉であります。その後の「愚か者」は、「モーロス」というギリシヤ語で、道徳的に愚かな人というような意味の言葉です。エルサレムの南に谷があります。昔、そこで神を拝み、死体が処理された。この時代には、そこが汚いものを焼く焼却場になっていたわけですね。

その地獄(ゲヘナ)の火に投げ込まれるというのです。また、エルサレムの宮の祭司の庭で、犠牲を祭司に渡して、祭司が犠牲の子羊を屠るときに獣の頭に手をおいて、自分の罪をその犠牲に全部負わせる祈りをする。そのとき、兄弟に恨まれていることを思い出したら、供え物をそこに置いておいて、一度帰って兄弟と和解してからしなさいと主は教えたわけですね。クアドランスというのは、ローマの最小の単位の貨幣で、日本のお金で一円ぐらいと言われていますが全部支払うまでは出てくることのできない。何か悪い事したときは償いをせずに神様の前に出るということとしてはいけない。心から和解をして出てきなさいということですね。

結婚している婦人を見たら思いで見る。「見る(ブレポー)」は、一瞥するという言葉です。だから結婚している者に対してみだらな心でその婦人を一瞥するということをしたなら、法律では、ユダヤでは死刑にされたわけですね。しかし、キリストは、そういう思いを持つこと自体すでに姦淫である、婦人の人格を無視した態度であるというのです。この頃のギリシヤでは快樂のために娼婦を持つのが当たり前で、妻は家を守ることだけやって、そして情欲の対象として他の婦人を持って、快樂主義を生きていたわけですね。当時、コリントの町のお宮には、千人程の娼婦がいたと言われています。ですからイエス・キリストの教えというのは、当時は本当にショックなことであったわけですね。婦人は男の道具であって、人間として見られていなかった。それに対して婦人の人格というものを認め、みな同じであるということ宣言したのであるから実に革命的なものであったわけですね。「右」は、聖書では非常に大事な意味をもっています。rightは、正しいという言葉ですが、清いものが右です。ですから、右の手を差し伸べて握手をする。あるいはペトロが使徒言行録で、美しの門で乞食を見て、右の手をとって立ち上がらせた。右という字を入れるときには、清い正しいことを表す言葉ですから、右の目、つまり本来、本当に綺麗で清くなければならないあなたの目が、あなたの手が、罪を犯すなら、あなたは全く処置なし、切っしてしまいなさい。こういう非常に厳しい言葉を言われているわけですね。